

## 投資信託が得意とすること ～許容できるリスクに見合った選択のために

日興AMニュースレター

nikko am  
fund academy

### ■投資信託のメリットは、やはり“プロによる運用”です。

一般に、投資信託(ファンド)とは、「投資家からお金を集め、運用の専門家が投資・運用する商品」であり、その運用成果(リターン)を投資家の投資額に応じて配分する仕組みを持ちます。また、集めた資金をどのように投資するかは、あらかじめ「運用方針」として投資信託ごとに決められています。

投資信託のメリット/デメリットを考える上で見落としがちなことは、それらは、あくまでも個人による投資と比較しての規模や専門性、リスク管理の面でのメリット/デメリットであるということです。つまり、投資信託の運用成果は個人の投資と同じく、市場環境などによって変動し、利益となることもあれば損失となることもあります。“専門家だから損失を出さずに運用できる”とは、残念ながら成りません。

一方、投資信託は、運用の専門家が常時、幅広く世界から集めた情報を分析し運用を行なっていることから、市場に予想外の変化が生じた場合などに柔軟な対処が成されると期待されます。また、運用に際し明確なルールに則ると共に、運用部門とは異なる部門が、リスクを過度に取っていないかなどをモニタリングするなどリスクの抑制に努めています。加えて、投資家の皆様から預かった資金(信託財産)は、信託銀行で厳格に管理されるなど、充実したリスク管理が、投資信託の大きなメリットと言えます。

### ■大きな資金で運用する投資信託は、主に分散投資で運用されます。

個人投資家の運用に比べ、投資信託は大きな資金で運用されることから分散投資が主流となります。分散投資の手法には株式、債券といった資産分散や、国内/海外などの地域分散、投資時期を分ける時間分散などがあります。ただし、その投資効果(分散効果)は、どの程度の数(銘柄数)に分散させるのか、或いはどういった投資対象に分散させるのかによって異なることが知られています。

少数の銘柄に集中投資を行なう場合に比べ、多くの銘柄に分散投資を行なうと、個別銘柄から被る損失が投資資金に与える影響の抑制が期待されます。これを分散効果と呼び、投資銘柄数をある程度まで増やす中で、その効果が高まると期待されます。一方、個別銘柄から獲得した利益が投資資金に与える影響も逆の意味で同様であり、分散投資を行なうことで、利益が投資資金に与える影響は薄まることが多く、これは分散投資の代償とも言えます。ただ、投資理論によれば、個別銘柄ごとの値動きがバラバラである(相関性が低い)場合、損失抑制の効果は、利益の薄まりよりも大きいと言われています。

このように、分散投資を行なうことにより、個別銘柄の価格変動が投資資金に与える影響は、良くも悪くも、小さくなる傾向があります。こうした投資資金の変動(量)を投資の世界では「リスク(量)」と呼んでおり、一般的に分散投資を行なうことでリスクの抑制が期待されます。

大きな資金で運用される投資信託は、多かれ少なかれ分散投資を行なっており、個人の投資に比べ、運用リスクが低くなることをめざす商品であると言えます。

日興アセットマネジメント

- 当資料は、日興アセットマネジメントが投資手法や投資環境などについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## ■アクティブ運用とインデックス運用

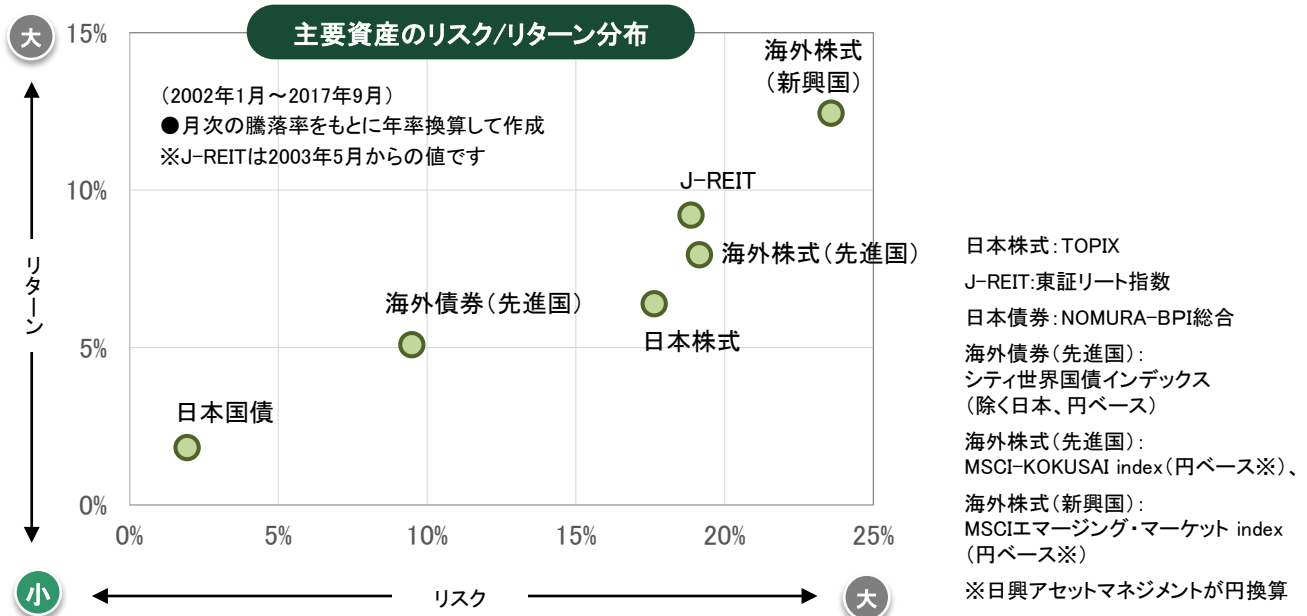
アクティブ運用とは、定められた投資対象から最大の投資成果(リターン)をめざす運用手法、インデックス運用は定められた指数などに連動したリターンをめざす運用手法を指しますが、日本では、1980年代後半から株価指数などのインデックスに連動した投資成果をめざす「インデックスファンド」が普及するようになり、現在では大きな位置を占めるようになっていきます。

アクティブ運用を行なったとしても、中長期で見ると、投資対象を代表するインデックスを上回るリターンをあげ続ける投資信託は決して多くないと言われます。アクティブ運用の担当者は、その能力を駆使してリターンの向上に加えてリスクの抑制もめざしていますので、リスクを抑制した分、期待されるリターンも低くなりがちです。言い換えれば、アクティブ運用の目的は、一定のリスクの範囲で、より高いリターンをめざすことであり、単純に投資対象を代表するインデックスを上回ることではないと言えます。

## ■金融商品を選択する際には、リターンだけでなくリスクの検討が重要です。

投資においてリターンを求める場合には、価格変動(リスク)を受け入れる必要があり、期待されるリターンは、どの程度のリスクを取れる(許容する)かによって大きく変わります。つまり、投資資産の値下がり回避するためにリスクが低い金融商品を選択すれば、自ずと期待されるリターンは低くなります。一方、多くのリスクを許容できるのであれば、投資信託の中でもリスクの高いものや、投資信託に限らず、より高いリターンが期待できる資産に投資を行なうことができます。

このように、投資に際しては、期待されるリターンの優劣だけで判断するのではなく、投資に伴うリスク量が許容できる範囲にあるかどうかを検討することが大切です。見出した投資対象への投資に際しては、直接投資の他に、同様な投資対象に投資を行なう金融商品があるならば、リスク抑制に努めており、相対的に低リスクとなることが期待される投資信託を選択いただくのも一考です。



- 信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成
- グラフは過去のものであり将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが投資手法や投資環境などについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。

■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。